

健康

質問 血液検査で、がんを診断するのは難しいと聞きました。血液検査の腫瘍マーカーは、あまり信頼できないのですか。将来は少しの血液でがんを診断できるようになるというのは本当ですか。



中尾 隆之 徳島大学病院 医療技術部長

回答 さまざまな病気の診断や経過観察に欠かせないのが血液検査です。しかし、がんの診断は、コンピュータ断層撮影(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)、内視鏡検査が主役。血液検査は脇役となる場合が多いです。

そんな中で重要な役割を果たすが、がん診断の血液検査の代表格である腫瘍マーカーです。その主な例を紹介します。肝細胞がんを使うのは、AFPやAFP-L3分画やPIVKA-IIがあります。これらの組み合わせによって、早期がん(I)で4割、進行がん(I)で8割以上のがんを見つけることができます。

しかし、肺がんでは、早期がんの診断はほぼ不可能です。肺がんの中でも、腺がんはCEAとS

腫瘍マーカーの信頼性は



IX、扁平上皮がんはシフラUSCC、小細胞がんはPro-GRPとNSEなどを用います。

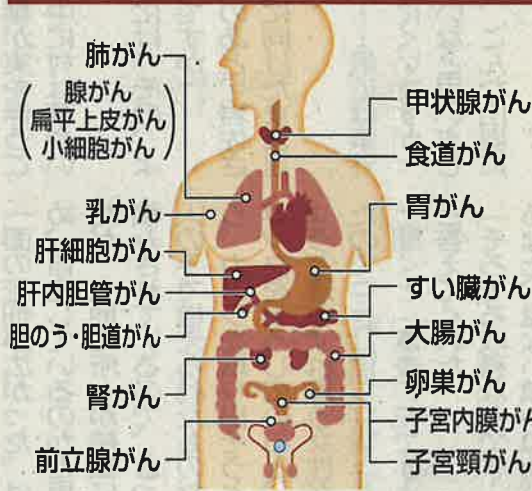
がん何でもクイズ

2016年に始まった国内のがん患者に関するデータを集計・分析する新しい制度を何と呼ぶでしょう。①地域がん登録②全国がん登録③院内がん登録

行こうよ！がん検診

肝細胞・前立腺検査で有効

腫瘍マーカーで分かる主ながん



大腸がんはCEAとCA19-9が進行具合や治療効果の判定に役立ちます。とはいえ、早期がんの診断はほぼ不可能です。卵巣腫瘍は通常はCA125を用います。さらに近年登場したHE4

を併用することで、良悪性かの判別が8割程度可能です。

前立腺がんを用いられるPSAは最も優秀な腫瘍マーカーです。これは先進国で統一の数値が使われていきます。血液1

ミリあたり4・0ナノを超過したら4・0ナノを超過

えたら、前立腺生検を勧めます。腫瘍マーカーは、がんの診断では今のところ補助的な役割です。それでも手術後のがん残存の可能性の評価や、化学療法の効果の判定、がんの再発予測、予後の予測といった治療の場面で大いに活躍しています。人間ドックでは、これら腫瘍マーカー検査が可能です。ところが職場や住民検診のがん検診では、設定されていないことがほとんどです。体調に何か不安があれば医療機関の受診を勧めます。現在、血液中に存在するリボ核酸(RNA)の一種であるマイクロRNAを用いた早期がん診断の研究が進んでいます。そして数年後には実用化の予定です。この検査が実用化すると、人間ドックでのわずかな量の採血によるオプション検査で、多くの種類の早期がんが高精度に判明できるよう。検査技術の進歩に期待してください。

(第4土曜掲載)

マイクロRNA 研究進む